

水害の危険性を予測し被災情報を共有する「ため池防災支援システム」

生産

実装

品目:防災

気象災害の回避

概要

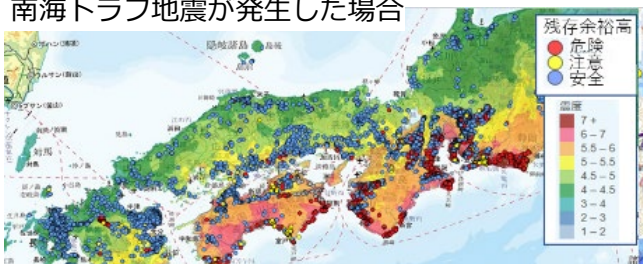
地震・豪雨時に、ため池の決壊危険度をリアルタイムで「見える化」とするとともに、現地のため池被災状況を防災関係者に情報共有するシステムを開発した。これにより、ため池決壊による人的被害の軽減と迅速な災害対応支援が可能となる。

背景・効果・留意点

東日本大震災や平成30年7月豪雨などの大災害で、ため池が決壊し、その下流域で甚大な二次被害が発生した。このような二次被害を防ぐためには、ため池の決壊を予測し、その危険情報を伝達する手段が必要である。

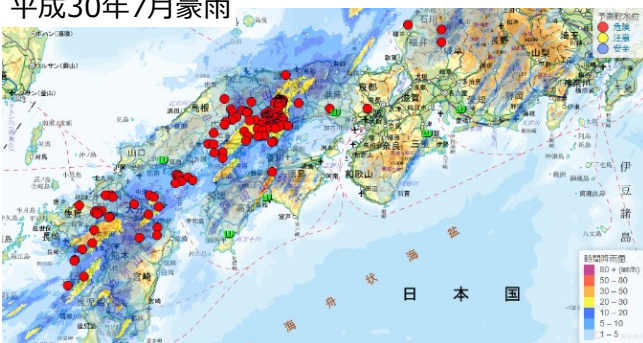
「ため池防災支援システム」(図1)では、大災害時に決壊危険度をリアルタイムで予測するとともに、現地の被災状況および被災写真を国や自治体等の防災関係者と情報共有できる(図2)。その結果、迅速な緊急対策や災害支援を達成することができる。

南海トラフ地震が発生した場合



地震発生時の危険度予測

平成30年7月豪雨



豪雨発生時の危険度予測

ため池の危険度を「危険(赤)」、「注意(黄)」、「安全(青)」で表示

図1 ため池防災支援システム



図2 ため池管理アプリ

技術の詳細



<https://www.naro.go.jp/project/society5-sdgs/145027.html>

問い合わせ

info-greenasia@jjrcas.affrc.go.jp

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構

